

第二四五回ペン川柳会

令和六年十月二十八日

お題 「耳」

■ 安藤(晃二)

てるつぐ

マニアック朝食至福パンの耳  
壇ノ浦平家に献じ琵琶語る

■ 浜田 (我々好)

ウイスキー

耳遠くなっても悪口だけは別  
エビス耳なのに来るのは貧乏神

■ 山縣 (安兵衛)

やすべえ

耳よりな話に潜む深い闇  
ほんとかな耳を引っ張り一呼吸

■ 塚田 (拿々)

だだ

陰にいて組織牛耳る悪い奴  
耳ふさぐニュースばかりが世に溢れ

■ 松谷 (零門)

れいもん

耳にタコでも止められぬ忘れ物  
医師の指示よく聞き取れず大病に

■ 稲宮 (井波)

いなみ

ごまかすな耳を揃えて返しなよ  
ニュースより耳よりチラシまず探す

■ 三春 (火酒)

ウオツカ

枯れたとて耳毛鼻毛は伸び盛り  
耳掃除こりゃ大物だ神棚へ

■ 大野(だし)

彼女からプロポーズされ耳疑う

自民党言い訳のみに耳日曜

■ 八木(明迷)  
めいめい

耳鼻の毛が伸びてこそ長寿かな

耳とおく読唇術を身につける

世話人 塚田 實(拿々)  
だだ